

米国の退職年金制度における ターゲット・デート・ファンドの役割 —分散型ポートフォリオが確定拠出年金加入者に ソリューションを提供—

シュディプト・バナージ
ワイアット・リー

(日本におけるコンタクト先) 瀧川 一 CMA

目 次

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 米国がたどった年金制度とTDFの歴史 | 7. TDFの投資メリット |
| 2. 確定給付から確定拠出への移行 | 8. TDFの多様性強化 |
| 3. TDFの創設 | 9. 受託者の責任とTDFの選択 |
| 4. 立法措置がTDFを後押し | 10. TDF投資の未来 |
| 5. 自動加入とTDFの普及 | 11. 最後に |
| 6. 参加者の運用成果の向上 | |

本稿では、日本の退職給付制度の参考事例として米国の制度の歴史を紹介し、中でも主流となっているターゲット・デート・ファンドの役割について詳解する。日本でも制度が段階的に拡充され、近年では特に確定拠出年金（DC）が大きな成長を遂げ始めているが、資産配分の偏在や資産見直しの頻度などの課題もある。DCで先行する米国のこれまでの課題と取り組みを振り返ってみるのは、日本においても意義があるだろう。実は米国でも、制度が整備されて取り組みが成熟するまでには長い年月と悪戦苦闘の歴史があり、米国の問題には日本でも共通する課題となるものも多い。日本の読者には、本稿を通じて米国の経験から失敗と解決策の両方をみていくことで、日本の退職給付における一層の充実化の参考になる点も多いのではないかと考える。

シュディプト・バナージ (Sudipto Banerjee)

ティー・ロウ・プライス リタイアメント・ソートリーダーシップ・ディレクター。Ph. D.。

ワイアット・リー (Wyatt Lee)

ティー・ロウ・プライス ターゲット・デート戦略運用責任者。

瀧川 一 (たきがわ はじめ)

ティー・ロウ・プライス・ジャパン グローバル・マルチ・アセット部門ソリューションズ・ストラテジスト／ポートフォリオ・マネジャー アジア太平洋地域



シュディプト・バナージ



ワイアット・リー



瀧川 一